

2012年3月期 決算説明資料



ヴィンキュラム ジャパン株式会社

2012年5月22日

JASDAQ

証券コード:3784

目次

1. 2012年3月期 決算概要

- 決算ハイライト	P4
- 連結/個別P L	P5
- 上期/下期増減分析	P6 - P7
- 四半期別業績の推移	P8
- 受注高/受注残高の推移	P9
- 分野別業績	P10 - P13
- 財政状態（前期末比較）	P14 - P15

2. 中期経営計画（2012年度-2014年度）

- 3つの基本戦略	P17 - P21
- 新たな数値フレーム	P22
- 2013年3月期 数値計画（連結・個別）	P23
- 当期及び次期の配当見通し	P24

1. 2012年3月期 決算概要

決算ハイライト

・ 前期比較

- 当期は、マイカル経営統合に伴う大幅見込み減からのスタート。
- 特定顧客化戦略及び得意分野での営業に注力し、案件を積み上げ。
- 大型アウトソーシング案件安定化のための増員、クラウド向けプロダクト開発への積極投資、アセアン地域における事業化調査等を実施。

⇒ 売上高はほぼ前年数値を達成。各利益は前年を下回った。

・ 予想比較

- 収益構造改革が奏功したほか、ソリューション案件及び大型のライセンス販売が好調に推移し、マイカル経営統合に伴う大幅見込み減をカバー ⇒ 売上高、利益とも予想値を上回った。

(連結, 金額: 百万円, 百万円未満切捨)

科目名	前期 (2011/3期)	当期(2012/3期)		前期比較	
		予想※	実績	増減額	比率(%)
売上高	9,273	9,000	9,156	△116	98.7
営業利益	222	△168	△89	△312	—
経常利益	215	△133	△40	△256	—
当期純利益	96	△55	△36	△133	—

※2011年10月21日修正開示値

2012年3月期 連結/個別PL

連結

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

	通期		修正開示対比 (10月21日発表)				前年対比			
	実績値	売上比	開示比	開示差	開示値	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	9,156	—	101.7%	156	9,000	—	98.7%	△116	9,273	—
売上総利益	1,474	16.1%	104.4%	62	1,412	15.7%	76.0%	△465	1,940	20.9%
販売管理費	1,564	17.1%	99.0%	△15	1,580	17.6%	91.1%	△152	1,717	18.5%
営業利益	△89	△1.0%	—	78	△168	△1.9%	—	△312	222	2.4%
経常利益	△40	△0.4%	—	92	△133	△1.5%	—	△256	215	2.3%
当期利益	△36	△0.4%	—	18	△55	△0.6%	—	△133	96	1.0%

個別

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

	通期		修正開示対比 (10月21日発表)				前年対比			
	実績値	売上比	開示比	開示差	開示値	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	8,300	—	105.1%	400	7,900	—	97.5%	△214	8,515	—
売上総利益	1,202	14.5%	106.5%	73	1,129	14.3%	71.9%	△469	1,672	19.6%
販売管理費	1,322	15.9%	98.7%	△17	1,340	17.0%	90.9%	△132	1,455	17.1%
営業利益	△119	△1.4%	—	91	△211	△2.7%	—	△337	217	2.6%
経常利益	△82	△1.0%	—	97	△180	△2.3%	—	△301	218	2.6%
当期利益	△75	△0.9%	—	26	△102	△1.3%	—	△111	35	0.4%

2012年3月期 上期増減分析

上期 <連結>

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

	上期		当初開示対比 (5月12日発表)				前年対比			
	実績値	売上比	開示比	開示差	開示値	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	4,403	—	104.5%	188	4,215	—	98.3%	△76	4,479	—
売上総利益	611	13.9%	69.1%	△273	885	21.0%	66.0%	△314	925	20.7%
販売管理費	776	17.6%	90.3%	△83	860	20.4%	90.6%	△81	857	19.1%
営業利益	△165	△3.8%	—	△190	25	0.6%	—	△233	67	1.5%
経常利益	△133	△3.0%	—	△153	20	0.5%	—	△210	76	1.7%
当期利益	△75	△1.7%	—	△88	13	0.3%	—	△85	9	0.2%

売上高

上期売上高は目標達成(開示対比104.5%)

大型のアウトソーシング受注等により目標を達成し、マイカル経営統合に伴う減少分をリカバリー

利益

営業利益・経常利益・純利益のマイナス

大型アウトソーシング案件安定稼働の為の要員の投入、新たなアウトソーシング案件獲得、クラウド向けプロダクトへの積極投資、アセアン地域における事業化調査コスト等により費用先行

2012年3月期 下期増減分析

下期 <連結>

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

	下期		修正開示対比 (10月21日発表)				前年対比			
	実績値	売上比	開示比	開示差	開示値	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	4,752	—	103.4%	156	4,596	—	99.2%	△40	4,793	—
売上総利益	863	18.2%	107.8%	62	800	17.4%	85.1%	△150	1,014	21.2%
販売管理費	787	16.6%	98.1%	△15	803	17.5%	91.7%	△71	859	17.9%
営業利益	75	1.6%	—	78	△2	△0.1%	48.8%	△79	155	3.2%
経常利益	93	2.0%	—	92	0	0.0%	67.0%	△45	139	2.9%
当期利益	39	0.8%	187.8%	18	20	0.5%	44.6%	△48	87	1.8%

売上高

下期売上高は改善(修正開示対比103.4%)

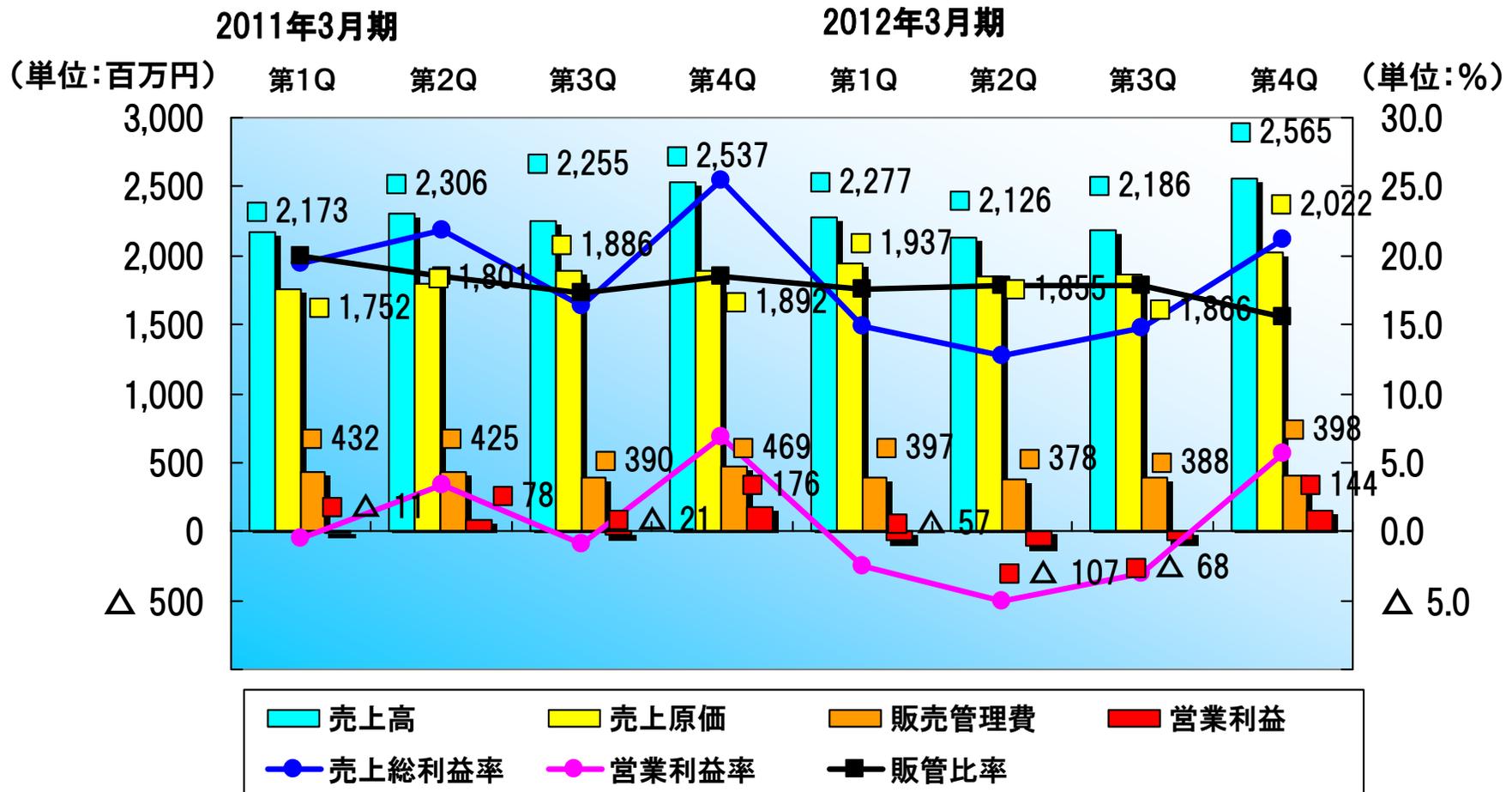
MD基幹システムに関する大型開発案件及びソリューション案件等の着実な積み重ねにより順調に推移

利益

営業利益・経常利益・純利益の黒字化

ライセンス販売が順調に推移したこと等により第3四半期より利益改善

四半期別 業績推移 <連結>



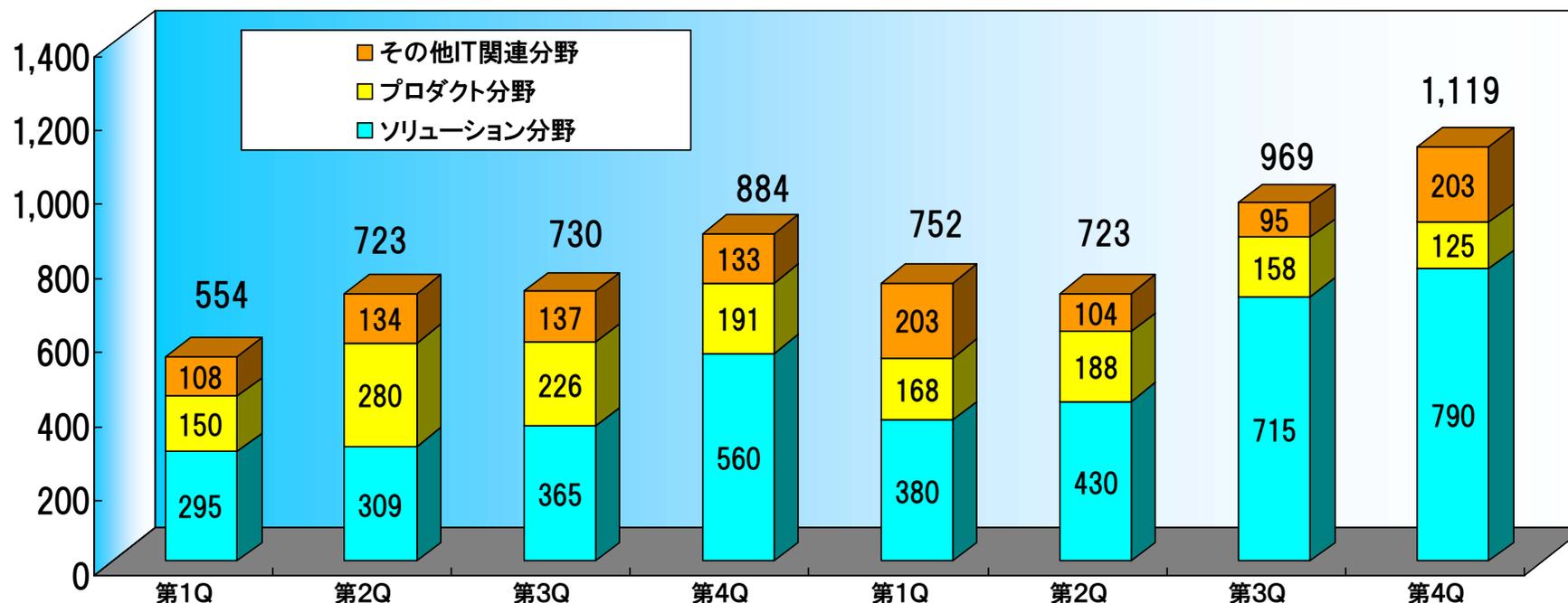
単位:%

	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
売上総利益率	19.4	21.9	16.4	25.4	14.9	12.8	14.7	21.2
販管比率	19.9	18.5	17.3	18.5	17.5	17.8	17.8	15.5
営業利益率	△0.5	3.4	△0.9	6.9	△2.5	△5.1	△3.1	5.6

受注高・受注残高の推移 <連結>

<受注残高の推移>

(単位:百万円)



<受注高の推移>

2011年3月期

2012年3月期

単位:百万円

	2011年3月期				2012年3月期			
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
ソリューション分野	655	723	664	980	605	765	970	964
プロダクト分野	192	405	143	268	120	222	275	265
その他IT関連分野	316	316	397	454	453	233	249	436
合計	1,165	1,445	1,205	1,703	1,179	1,221	1,495	1,665

分野別業績 – アウトソーシング分野の状況

アウトソーシング分野

(システム運用・管理サービス、保守、ヘルプデスクサービス、ASPサービス等)

✓活動結果サマリー

- ・売上は、主要顧客へ注力し、新規案件の受注等あったものの、開示対比・前年対比共に未達となった。
- ・利益は、大型アウトソーシング案件稼働のための要員投入、設備投資等を行ったため利益率が悪化したが、営業利益ではほぼ開示値を達成した。

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

<連結>	通期		修正開示対比 (10月21日発表)				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	3,829	41.8	97.3	△107	3,936	43.7	91.9	△336	4,166	44.9
売上総利益	301	7.9	84.2	△56	357	9.1	42.2	△412	713	17.1
営業利益	△43	△1.1	—	0	△42	△1.1	—	△283	240	5.8

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

分野別業績 – ソリューション分野の状況

ソリューション分野

(流通サービス業基幹システム、クレジットカードシステム、Webシステムの開発)

✓活動結果サマリー

- ・売上は、特定顧客化戦略により、着実に受注を積み重ねほぼ開示値を達成した。
- ・利益は、粗利ベースでは貢献できたものの営業費の増加により、開示対比では低調となった。

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

<連結>	通期		修正開示対比 (10月21日発表)				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	3,075	33.6	99.5	△14	3,089	34.3	110.8	298	2,776	29.9
売上総利益	582	19.0	95.1	△30	613	19.8	116.1	81	501	18.1
営業利益	121	3.9	47.9	△131	253	8.2	146.5	38	82	3.0

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

分野別業績 – プロダクト分野の状況

プロダクト分野 (流通サービス業向けパッケージ開発、販売)

✓活動結果サマリー

- ・売上は、開示対比・前年対比共に順調な推移となった。
- ・利益は、開示対比では下期よりライセンス販売が好調に推移し、増益となった。
一方、前年対比では、トラブル案件により開発コストが増加したため減益となった。

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

<連結>	通期		修正開示対比 (10月21日発表)				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	949	10.4	133.6	239	710	7.9	104.9	44	905	9.8
売上総利益	310	32.7	154.7	109	200	28.2	71.3	△124	435	48.1
営業利益	161	17.0	526.9	130	30	4.3	62.5	△96	258	28.5

※比率…売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

分野別業績 – その他IT関連分野の状況

その他IT関連分野 (ハードウェア販売、移設展開サービス、その他ITサービス)

✓活動結果サマリー

- ・売上は、主要顧客向け店舗システム導入に伴いハードウェア販売が好調に推移し、開示値は確保した。
- ・利益は、主要顧客の販促強化案件が好調に推移し、営業利益では開示対比・前年対比共に増益となった。

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

<連結>	通期		修正開示対比 (10月21日発表)				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	1,302	14.2	103.1	39	1,263	14.0	91.4	△122	1,425	15.4
売上総利益	280	21.5	116.6	39	240	19.0	96.7	△9	289	20.3
営業利益	212	16.3	169.1	86	125	10.0	122.4	38	173	12.2

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

財政状態(前期末比較)

【貸借対照表】

(単位:百万円)

区分	2012年 3月期末		2011年 3月期末	差 額
		構成比		
流動資産	3,497	64.7	3,824	△ 327
固定資産	1,909	35.3	1,810	98
<有形固定資産>	574	10.6	499	75
<無形固定資産>	717	13.3	744	△26
<投資その他の資産>	617	11.4	567	50
資産合計	5,406	100.0	5,635	△228
流動負債	1,692	31.3	1,783	△90
固定負債	160	3.0	211	△51
負債合計	1,852	34.3	1,994	△142
純資産	3,553	65.7	3,640	△ 86
負債・純資産 合計	5,406	100.0	5,635	△228

【貸借対照表のポイント】

<流動資産>

- ・現預金の減少
- ・売掛債権の増加

<固定資産>

(有形固定資産)

- ・設備投資の増加

(無形固定資産)

- ・のれんの減少

(投資その他の資産)

- ・関連会社株式の増加

<負債>

- ・社債の減少

- ・長期借入金の減少

<純資産>

- ・当期純損失の計上

- ・配当金の支払

キャッシュ・フローの状況

	(単位:百万円)
税金等調整前当期純損失	△ 40
減価償却費	352
のれん償却額	37
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△ 4
持分法による投資損益	△ 5
売上債権の増減額(△は増加)	△ 516
たな卸資産の増減額(△は増加)	111
仕入債務の増減額(△は減少)	51
未払金の増減額	△ 67
その他	△ 133
小計	△ 216
法人税等の支払額等	△ 14
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 230
有形固定資産の取得による支出	△ 180
無形固定資産の取得による支出	△ 244
関係会社株式の取得による支出	△ 57
その他	46
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 435
社債、借入金の返済による支出	△ 45
配当金の支払額	△ 63
少数株主からの払込みによる収入	14
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 92
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 758
現金及び現金同等物の期首残高	1,536
現金及び現金同等物の期末残高	777

【キャッシュ・フロー計算書のポイント】

<営業キャッシュ・フロー>

増加要因

- ・固定資産の減価償却費
- ・棚卸資産の減少

減少要因

- ・税金等調整前当期純損失の計上
- ・受注増による売上債権の増加
- ・未払金の減少

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

- ・サーバー等の固定資産の取得による支出
- ・FMSソリューション株式会社の株式の取得

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

- ・株式会社エス・エフ・アイにおける社債・借入の返済
- ・配当金の支払

2. 中期経営計画(2012年度-2014年度)

- ・2012年5月9日付「中期経営計画見直しに関するお知らせ」のとおり、2011年下期以降、利益面の回復が顕著に現われていることを踏まえ、中期経営計画(2011年度-2013年度)における2012年度以降の数値フレームを引き上げ、さらに2014年度の数値目標を加えた中期経営計画(2012年度-2014年度)を公表いたしました。
- ・中期基本方針及び3つの基本戦略については、大きな変更はございません。

3つの基本戦略

3つの基本戦略

(1) 特定顧客化戦略

- ① 既存特定顧客への深耕
- ② 新規特定顧客の開拓
- ③ スtockビジネスの拡大
- ④ スモールビジネスの展開

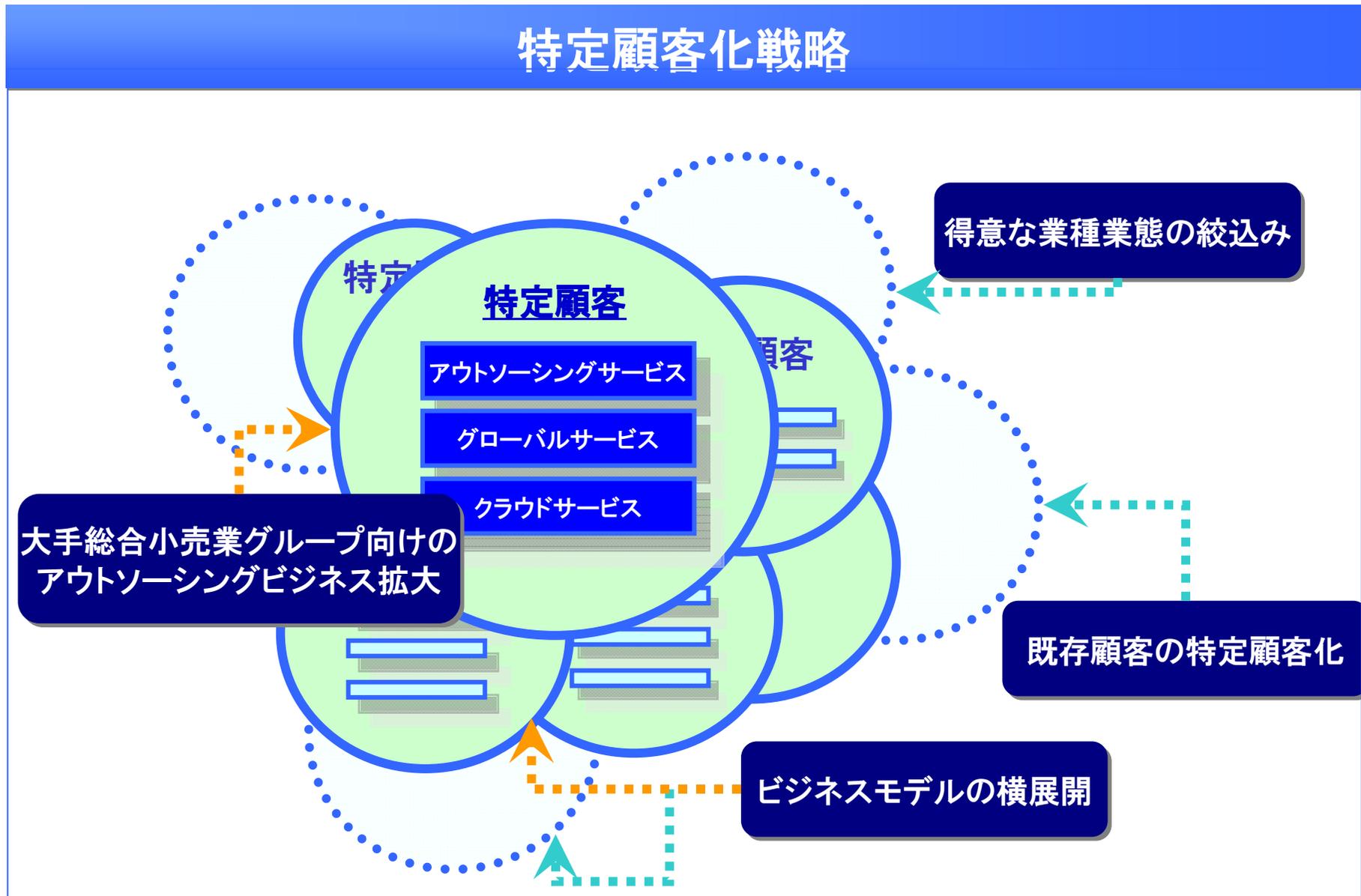
(2) グローバル戦略

- ① 大手総合小売業グループの中国・アジア地域におけるベストパートナー
- ② 独自のビジネスモデルの展開
- ③ 中国進出を検討している日系企業の支援と特定顧客化
- ④ グローバルパートナーとのアライアンス強化

(3) 商品・サービスの差別化戦略

- ① プロダクトのクラウド化
- ② グローバル展開に対応した商品化
- ③ 新しいチャネル販売モデルの確立

特定顧客化戦略



当期の主な取組み

進展する“特定顧客化戦略”と“グローバル戦略”

◆上海拠点の本格稼働 ～中国国内顧客向けITサービスのスタート

新たに設立した上海ヴィンキュラム(上海新域系统集成有限公司)において中国国内顧客向けデータセンター・ネットワークサービスをスタート。

◆マレーシア法人の設立 ～アセアン事業の立ち上げ

大手総合小売業グループのアセアン戦略に合わせ、市場規模及び成長性の観点からマレーシア法人の設立を決定。(2012年3月30日プレスリリース)

→ご参考 当社グローバル拠点網 【次ページ参照】

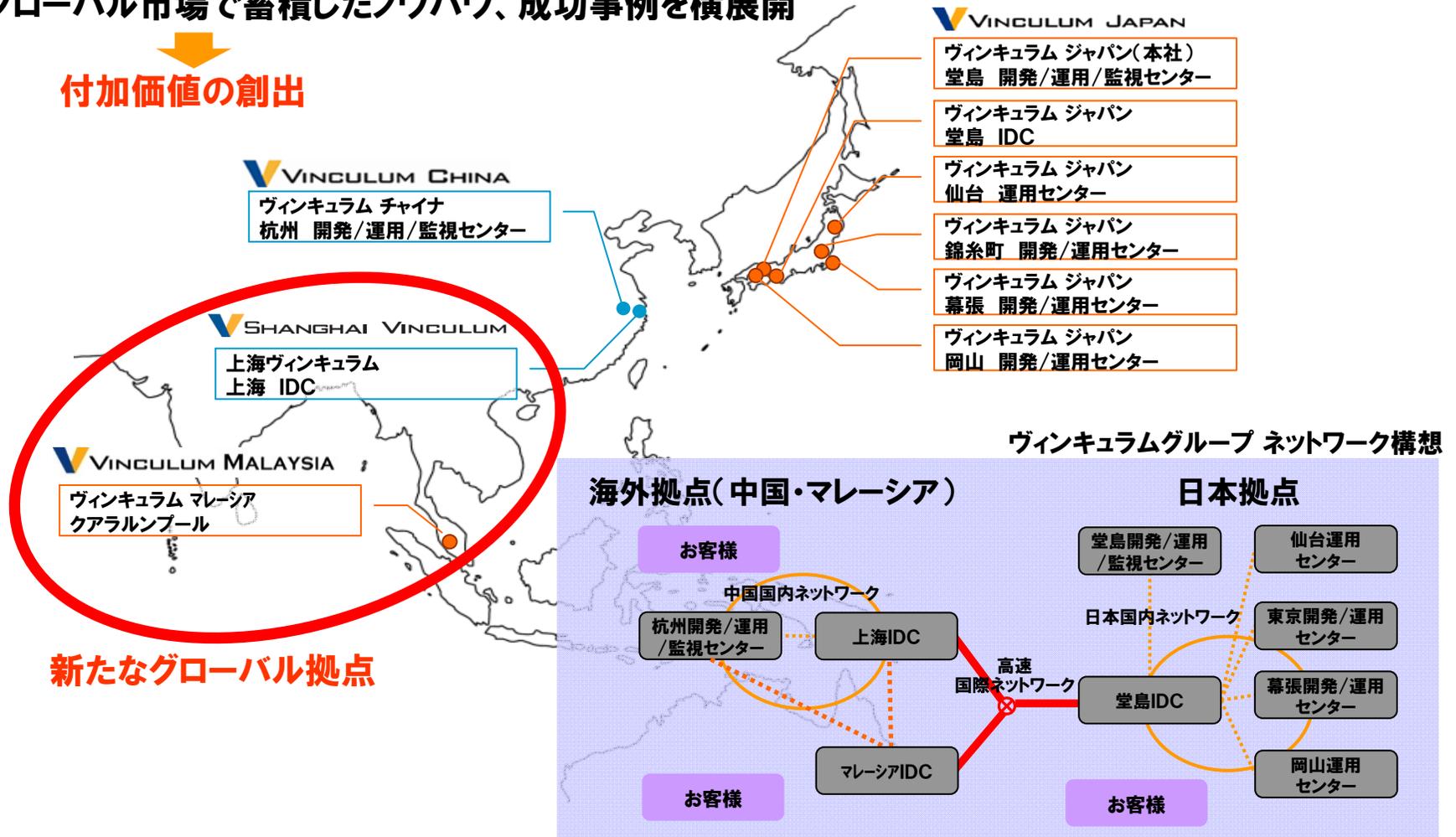


当期の主な取組み

◆ ヴィンキュラムグループのグローバル拠点網

- ・各拠点をフル活用し日本品質のサービスをスピーディに提供
- ・グローバル市場で蓄積したノウハウ、成功事例を横展開

付加価値の創出



当期の主な取組み

“商品・サービスの差別化戦略”の推進

◆クラウド型「顧客情報システム」の開発 ～東芝テック(株)との共同開発

当社パッケージプロダクト「Satisfa®」で培ったノウハウをベースに、オープンソースを活用したシステムへの刷新に着手。(2012年2月27日プレスリリース)

特長：クラウド型/オンプレミス型の選択, 多彩なPOS連動プロモーション, さまざまな規模・業態においてローコストに運用可能

POSを基点としたONE-TO-ONEマーケティングをクラウド環境で!

クラウド型「次世代顧客情報システム」
スモールスタート + コストパフォーマンス + スケーラブル

+ 東芝テック(株)の販売チャネル

業種業態、規模(個人商店から大規模チェーン、商店街)



ANY-CUBE



Satisfa

ビジュアルで分かりやすい分析結果
(販促カレンダー)

新たな数値フレーム

単位:百万円, %、百万円未満切捨て

連 結	売上高		営業利益			経常利益			当期純利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比	利益率		前年比	利益率
2010年度(実績)	9,273	98.8	222	—	2.4	215	—	2.3	96	—	1.0
2011年度(実績)	9,156	98.7	△89	—	△1.0	△40	—	△0.4	△36	—	△0.4
2012年度(計画)	10,300	112.5	263	—	2.6	253	—	2.5	165	—	1.6
2013年度(計画)	11,500	111.7	405	154.0	3.5	390	154.2	3.4	229	138.8	2.0
2014年度(計画)	12,800	111.3	610	150.6	4.8	530	135.9	4.1	333	145.4	2.6

個 別	売上高		営業利益			経常利益			当期純利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比	利益率		前年比	利益率
2010年度(実績)	8,515	96.4	217	—	2.6	218	—	2.6	35	—	0.4
2011年度(実績)	8,300	97.5	△119	—	△1.4	△82	—	△1.0	△75	—	△0.9
2012年度(計画)	8,900	107.2	210	—	2.4	200	—	2.2	124	—	1.4
2013年度(計画)	9,600	107.9	300	142.9	3.1	290	145.0	3.0	170	137.1	1.8
2014年度(計画)	10,200	106.3	450	150.0	4.4	370	127.6	3.6	229	134.7	2.2

2013年3月期 数値計画(連結・個別)

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

連結	通期			上期			下期		
	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比
売上高	10,300	—	112.5	4,976	—	113.0	5,323	—	112.0
売上総利益	1,925	18.7	130.6	915	18.4	149.8	1,010	19.0	117.0
販売管理費	1,662	16.1	106.3	822	16.5	105.9	839	15.8	106.6
営業利益	263	2.6	—	92	1.9	—	170	3.2	225.0
経常利益	253	2.5	—	87	1.8	—	165	3.1	177.5
当期純利益	165	1.6	—	49	1.0	—	115	2.2	296.5

個別	通期			上期			下期		
	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比
売上高	8,900	—	107.2	4,422	—	111.3	4,477	—	103.5
売上総利益	1,549	17.4	128.8	750	17.0	147.3	799	17.8	115.2
販売管理費	1,339	15.0	101.2	665	15.0	100.7	674	15.1	101.8
営業利益	210	2.4	—	85	1.9	—	125	2.8	397.2
経常利益	200	2.2	—	80	1.8	—	120	2.7	314.2
当期純利益	124	1.4	—	47	1.1	—	76	1.7	—

当期及び次期の配当見通し

・ 配当方針

当社は、株主様への利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しており、配当金につきましては、企業価値の向上とその水準の維持を可能とする範囲において、事業拡大のための内部留保を勘案しながら決定することを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、今後予想される事業規模拡大のための新規事業及び新製品の開発に対して有効に投資してまいります。

・ 配当見通し

(単位:円, 1株あたり)

	中間配当金	期末配当金	年間配当金合計	配当性向(連結)
2011/3期(実績)	—	2,000	2,000	65.3%
2012/3期(実績)※	—	1,000	1,000	△85.7%
2013/3期(予想)	1,000	1,000	2,000	38.2%

※2012年6月27日開催予定の第23回定時株主総会において決定予定の内容を表示しております。

＜本資料取扱のご注意＞

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料の作成は、正確性を期すために慎重に行っておりますが、正確性・完全性を保証するものではありません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は当社の公表している将来見通しとは大きく異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

ヴィンキュラム ジャパン株式会社
管理部 法務・IRグループ
e-mail : ir@mail.vinculum-japan.co.jp